

2005 (平成17年) 1月号

カルメル

霊性センターニュース

1月号



NO. 195

「私が示す地に行きなさい」

カルメル会 中川 博道

新年明けましておめでとうございます。新しい年の祝福と平和が皆さんの上に豊かにありますように心よりお祈り申し上げます。

新しい年を迎え、また新たな一年の旅の出発を思い巡らしながら「星の王子さま」の一節が思い浮かびました。

王子さまはいいました。

「みんなは、特急列車に乗りこむけど、いまではもう、なにをさがしてるのか、わからなくなってる。だからみんなは、そわそわしたり、どうどうめぐりなんかしてるんだよ……」それからまた、つづけていいました。「ごころうさまな話だ……」(「星の王子さま 25」)

確かに、日常の中で、私たちは何を探しているのか、何を心から願っているのかがわからなくなったまま、走りつづけている時があります。しかし、特急列車は容赦なく走り、私たちを運びつづけます。

時々立ち止まって日常から離れ、ゆっくりとした時間と静けさの中で、私の中の奥深い声、いつも聴いている感情や考えよりも深いところにある声に耳を澄ませる必要に迫られます。それは、きっと、静かな声ですが、私の中にある本当の願い、本当の望みを示してくれます。

しかし、人々は単なる「自分の」深い望み、「自分の」心からの願いに生きることの限界にも気づいています。現代は、人が「自分の」願い、「自分の」望みに生きてきた結果としての混乱と暗さを抱えています。

アブラハムは、その晩年、自分への呼びかけに気づきました。

主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれ故郷

父の家を離れて

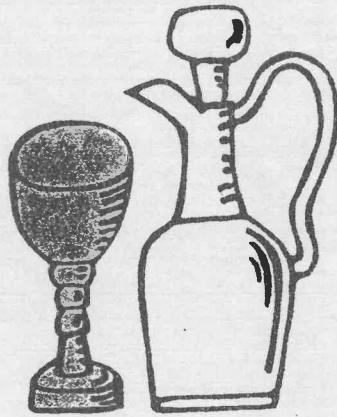
わたしが示す地に行きなさい。」(創世記 12.1)

私たちが特急列車に乗り込むのは、「自分の」願いの実現以上の意味と奥行きを持っています。「なにをさがしてるのか、わからなくなってる」「どうどめぐり」を抜けさせる呼びかけが私たちに届いているはずです。

「私が示す地に行きなさい」。私たちにとって、未知の世界、いまだ踏み込んだことのない世界への招きです。ただ、星の王子さまの「目では見えない、心で探さないと」という言葉の重みが伝わってきます。

新しい年を私たちはどのように旅していくことになるのでしょうか。

心の泉



跣足カルメル在俗者会の会憲（5）

序言（3）、会憲 第1条

チプリアノ・ボンタッキョ神父

前回に続いて、序言の後半と会憲の第1章の解説をしたいと思います。

“跣足カルメル会”は近年“テレジア的カルメル会”と度々呼ばれるようになりました。そのように改名する動きも、特にスペイン系の修道者の中にあります。その理由としてあげられているのは、跣足カルメル会の中にイエスの聖テレジアの靈性の遺産が大きな重みを持っているということです。

跣足カルメル在俗者会は修道士と観想修道女と並んで、テレジア的カルメル会の中軸をなしています。かつては“第三会”と呼ばれ、なんとなく修道会に付随するもののように感じられていたかもしれません。でも今は、生活様式はそれぞれ違っても、同じ靈性、同じカリスマを生き、同じ遺産を受け継ぐ者として、修道士と修道女と一緒に修道会の中軸を形成するということが、この会憲に於いても、明言されていることは喜ばしいことです。

さて、会憲は全世界のカルメル在俗者会の共通の法典なので、基本的な事柄のみ定めています。生活に関する細かい規定を定めることを各地域に委ねています。そこで、それぞれの地域はその文化的、社会的また教會的な状況に従ってその地域に相応しい“特別規定”を定めることとなります。したがって会憲は、会則と並んで、同じカリスマを生きている世界のカルメル在俗者会の“一致”を現わすものとなり、“特別規定”は同じカリスマの具現化の多様性を示しています。最近よくいわれている“一致に於ける多様性”、“多様性に於ける一致”という原則に会憲は従っているのです。時代、文化、社会のおよび教會的な状況が異なっても、カリスマの本質は変わらないはずで、変わりうるのはそのカリスマを生きる具体的な表現だけです。

さてこれから会憲の本文に入ります。その第1章の1条に書かれていることはすでに序言に含まれているものです。即ち、カルメル在俗者会員はカルメル会の修道士と修道女と共にカルメル会の息子および娘であるということと、また同じカリスマ、同じ靈性、同じ聖性への召命、同じ使徒的使命を共有しているということです。

尚、上記の“聖性への召命”と“使徒的使命”について、一言の説明を加える必要があると思います。キリスト者みな“聖性への召命”を受けていることを誰でも認識しています。第二次バチカン公会議はそれを“普遍的召命”と呼んでいます。当然カルメル会員もすべてのキリスト者と同じ聖性へ

の召命を受けています。異なるところは、聖性に到達する道に於いて選ぶ手段です。カルメル会が選ぶ手段は、特に念禱、離脱、自己放棄などと思います。“使徒的使命”についても、他のキリスト者と異なるところは、選ぶ手段にあると思います。その手段の中に特に指摘したいものは二つあります。その一つは自分の祈りの生活を深めると共に他の人を祈りの道に導くことです。もう一つは、みことばを深く味わうように努力すると共に、そのことばを味わうように人を助けることです。

さて会憲の第1章の1条の最後にも一つのことを書いてあります。“在俗者会員は世に生きる人に特有な豊かさをカルメル会にもたらず”と。それは家庭生活および社会生活を営む者として蓄えた経験、“現世的な事柄に従事し、それらを神に従って秩序づけていく”（信徒の召命と使命,9）努力を続けている者が得た知識、蓄えた経験など、修道者が持たないこの豊かさを意味するのだと思います。



断想 (198)

「八木重吉」といえば、現代に広くなじまれている詩人。わたしにとっても、これまで、深いキリストの愛の響きを伝えてくれました。

読者の皆さまとの心の出会いを求めて、この紙面で、八木重吉の美しい詩のうちに、イエス・キリストの温かく、そして深いみ心に出会う折を、新しい年に求めていきたいと思いました。すでに、「靈性センターニュース」前年号からはじめました。

よのなかのひとがみいんな
ひとつの家にすまえたらいいのに
あたえるというきもちもなく
うくるというきもちもなく
ただ かんしゃし ただ いくしみ
そして あらゆるものは
そうごんなしずけさにもえるのだ

聖書

この^{よいはん}聖書のことばを
うちがわからみいりたいものだ
ひとつひとつのことばを
わたしのからだの手や足や
鼻や耳やそして眼のようにかんじたいものだ
ことばのうちがわへはいりこみたい

(奥村 一郎)

ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(73)

喜びを選ぶこと

喜びは、人生を生きるに値するものとしてくれますが、多くの人が喜びを見出すのは難しいと感じています。彼らは、自分の人生は悲しみに満ち、落胆することばかりであったとつぶやきます。私たちが熱望している喜びは、一体どこから来るのでしょうか。ある人々はついていて、他の人々はついていないということでしょうか。どんなに奇妙に聞こえようとも、私たちは喜びを選ぶことができます。二人の人が同じ出来事に遭遇するということが考えられますが、或る人は、他の人とはまったく異なった風に、生きることを選ぶことでしょうか。或る人は、起きたことが、どんなに苦痛に満ちたものであろうと、何らかの約束を秘めているということに信頼する道を選ぶかもしれません。他の一人は、絶望を選び、それによって自己崩壊させられるかもしれません。

私たちが人間的なものとするのは、まさに、この選択の自由にあるのです。

(0130)

他の人のようであることの喜び

一見すると、喜びは、異なっていることに関連しているように思えます。私たちが賛辞を受け、賞を獲得する時、他の人と同じではないことの喜びを体験します。あなたは、より速く、より賢く、より美しい。そしてその違いが、あなたに喜びをもたらすのです。しかしそのような喜びは、まことに一時的なものです。本当の喜びは、他の人と同じように、もろく死すべき者であるということの中に隠されているのです。それは、同じ人類に属しているという喜びです。友として、同伴者として、旅の仲間として、他の人と共にあるという喜びです。

これが、インマヌエル、われらとともにおられる神、イエスの喜びなのです。

(0131)

くのり
九里 彰訳

《ゆるしの秘跡》(5)

⑦罪のゆるし

司祭 全能の神、あわれみ深い父は、御子キリストの死と復活によって世をご自分に立ち帰らせ、罪のゆるしのために聖霊を注がれました。

神が教会の奉仕の務めを通してあなたにゆるしと平和を与えてくださいますように。

わたしは、父と子と聖霊のみ名によって、あなたの罪をゆるします。

信徒 アーメン。

司祭を通して神様がわたしたちの罪をゆるしてくださいます。このゆるしの言葉によって、わたしたちの罪はすべてゆるされます。

⑧おわりに

司祭 罪をゆるして下さった神に感謝をささげましょう。

喜びと平和のうちにお帰りください。

この司祭の言葉は、司祭によって異なります。

この司祭の言葉によって個別のゆるしの秘跡は終わりです。ここで、告白をした場所から去り、司祭から与えられた償いの祈りを速やかに行います。

最後に、ゆるしの秘跡を受ける間隔ですが、できれば二ヶ月に一回ぐらい行うのが望ましいと思います。これ以上間隔が長くなってしまうと、それまでの自分の歩みを省みることができなくなり、生活の改善が難しくなってしまいます。それでもどうしても難しいならば、せめて年に二回、クリスマスと復活祭の前に行なうのが望ましいのではないのでしょうか？

また、中には、毎週行うような熱心な方も中には見受けられますが、それはあまり意味がないように思います。なぜなら、内容的に、一週間前と何も変わらないことが多いですし、また、その間に罪を犯さないような努力したのかどうかということも疑問だからです。

それから、ゆるしの秘跡でいつも同じ罪を告白してしまうと悩んでおられる方もいらっしゃると思います。心配することはありません。何も罪を犯さないのであれば、その人はもうこの世の人ではないからです。人間である以上、死ぬまで何らかの罪は犯し続けます。そして、人間には、弱さがあるので、その弱さが克服されなければ、何度も同じ罪を犯すこととなります。ですから、同じ罪を何度犯しても、気にする必要はありません。それよりも、なぜ、いつも同じような罪を犯すのか？自分の弱さは何なのか？ということ、このゆるしの秘跡を一つのきっかけとして気づいていくならば、見かけは何も変わらないかもしれませんが、少しずつ弱さが克服され、完成された人間に向かって歩んでいくことになるでしょう。

御公現
知恵の存在

(マタイ 2 : 1-12)

旧約の歴史において、神はさまざまな形をとってあらゆるやり方でご自分を示してきたと言われました。ここに神ご自身を現そうとなされた神がおられます。その神は人類と親しくかかわれる人間の姿をもって現れたのです。しかし神のご公現を理解する恵みにあずかった人はほんのわずかでした。異教の賢人たちは、肉体を持ってこの世に現れた神を認めえた人々でした。けれども主を待ち望む人々、聖書を通して約束された徴を得ていたはずの人々は、彼らに近づかれた神の存在がわからなかったのです。

三人の博士の話は、神の御公現を語るものです。三博士の旅は、私たちの人生にたとえることができます。彼らはあてもなくさまよったのではなく、はっきりとした目的を胸に抱いて歩んだのでした。神との出会いの象徴である星に彼らに従ったことは、それはまた私たち自身の人生の行く手を示唆するものともなります。

博士たちは私たちに語りかけます。私たちすべての心におられる神、その神を待ち望むのは、彼らととてももちろん同じでした。私たちは神の徴に対して心開くことに呼ばれています。私たちの持っているものはすべて何でも、そしてそれと同時に私達自身をも差し出すことに呼ばれています。三博士のように神に出会った帰路には、心が変わっていることに気づくことでしょう。

私たちの最も優れた英知、そしてもっとも高貴な聖霊の贈り物である知恵、それらを私たちは彼らにならって探し求めましょう。その知恵を捜し求めるのに決して遠くへ旅する必要はありません。私達自身の心の深みに住んでおられる神に向かって、精神的旅路をどこまでもたどりゆけばいいのです。

(Beatrice)

洗 礼
決断の時

(マタイ 3 : 13-17)

私たちの洗礼はイエスの洗礼とは異なるものです。しかしイエスの洗礼と同様に、私たちの洗礼にも顕示《イエスを顕すもの》と派遣とが含まれています。この顕示とは、御父の愛するひとり子が私たちの心におられることへの信仰を示すことです。洗礼によって、私たちはそのことに呼ばれています。この世にイエスがおられることを示すために呼ばれているのです。私たちの派遣は、イエスとともに神の国の福音を宣べ伝え、善きを行うために聖霊の力を注いでもらうことです。派遣はイエスの言われた真理を探し求めることを意味しています。その価値と私たちの生きる世界の価値とのギャップを自覚するのは、おそらく痛みで満ちていることでしょう。

イエスが呼ばれたように、私たちが呼ばれるこの顕示と派遣のどちらも、神のしもべとして隣人と一致して生き、ともに働くことです。そしてこの世に神の正義をもたらすことです。その一致のためにイエスは祈られたのでした。イエス自身と同じ人間性—穏やかさ、許そうとする忍耐、癒し、断行など—が私たちに求められます。決断の時にどのようにして対峙するか、私たちは試されています。イエスはご自分のその時に対峙し、それに向き合われました。個々の人生において遭遇する特別な私たちのその時に、イエスのなさり方を反映させましょう。

洗礼は特別なやり方で、イエスと私たちとを結び付けます。洗礼は終わりなき栄光に続く命の始まりです。洗礼の水はそれを受けたからといって自動的に救われるわけではありません。モーゼが砂漠で命じた岩から流れ出したその水は救いの水となりますが、水そのものは洪水となれば死をもたらします。「あなたは私の愛する子、あなたとともにいて私は喜ぶ。」天の御父がイエスにそう言われたように、神は私たち一人ひとりにも語りかけないでいるのでしょうか。

(Beatrice)

年間第二主日

イエスの魅力

(ヨハネ 1 : 29-34)

今日の福音で神が私たちに招かれるのは、イエスの証人である洗者聖ヨハネのその高貴さにです。「神の子羊」である彼のその美しい徴を、私たちは無意味なものとはしません。しかし、その一方でイエスを遠く隔たったところに据えてしまうこともできます。それは私たちが永遠に生きられるところとはまるで別な次元、天の高みへとイエスをあがめたてまつってしまうことです。そしてその反対に、単に慈悲深い人に過ぎない存在としてイエスを規定してしまうことすらできるのです。

もしキリスト者としての使命をおろそかにするなら、あるいは神の受肉に見られるような無限の愛を忘れるなら、この短い生の目的が死後の永遠の命を得るためだというイエスの教えを学ばないなら、私たちはキリストの裏切り者となり、また私達自身の最大の敵ともなり得るのです。キリストは私たちを、兄弟、姉妹、また天の御父の子供とするために来られました。イエスは私たちが永遠に生きられるように死なれたのです。

あるときインドを旅行する列車の中で、私は一人のヒンズー教徒に次のように尋ねられました。「あなたに結婚生活をあきらめさせるほど神を愛するのは、いったい何がそうさせるのですか」と。私が答えたのは「神が先に私を愛されたから」です。

洗礼者ヨハネは、私たちが救いを必要とする罪人であるということに気づかせるために、そしてイエスへと心開くように、人々の心に訪れます。イエスは救いに来られる方です。私達自身が救いを必要とする罪人であることに、どれほど気づいているかを自ら問うてみましょう。

(Beatrice)

年間第三主日

光であり救いである主

(マタイ 4 : 12-23)

イエスが招いた最初の弟子は、みな漁師でした。漁師たちは忍耐、節操、そして勇気といった長所を持っています。彼らは得ようと思った獲物を手にするまで懸命に漁をします。どんな失敗にも落胆することなく、彼らは挑みつづけます。伝道において、どれほど失敗が明らかでも、彼らの失敗は派遣をやめさせるものではありませんでした。彼らは一本筋の通った男たちでした。大嵐や、どれほど暗く深い海でさえ彼らは勇気をもって向かいました。福音が広がるにつれてのどんな試練や苦難に際しても、彼らは敢然と立ち向かったのです。イエスはそんな人々を求めました。イエスは彼らの中に、親密さ、素直さ、神の国への情熱を見いだしていました。それと同時に、神の国のために彼らの良いところすべてを危険にさらしたのでした。彼らそれぞれの長所はイエスには問題ではありませんでした。彼らは実際、控えめに言っても十分な訓練は一度たりとも受けたことなく、無学で、本当に何も知らなかったのです。しかしイエスの招きに自発的に応えたことがすべてを変えたのです。それに応えてイエスは彼らに聖霊を注いだのでした。

今日も私たちは、絶えずイエスから招かれているその一人です。もし世の騒がしさの中で私たちが煩わされているなら、イエスの声を聞き、その招きに応じることができないかもしれません。耳をすませて、招きに応じるための時間をさきましょう。そのあたたかい愛に心を魅せられましょう。そうすればイエスの真の弟子となりえます。

私たちキリスト者は、私たちの全人格を喜びの光が満たしてゆくのに身をまかせて歩み行かねばなりません。その光は直接心を照らす光であり、心の窓を開け放ち、そして私たちを輝かせる光なのですから。

(Beatrice)

年間第四主日

幸いなるかな、心の貧しい者…

(マタイ 5 : 1-12)

イエスが求めた三つの重要なことは、貧しいこと、悲しむこと、飢えかわくことでした。聖書における貧しさとは、決して経済的な貧しさを意味するものではありません。それは人々の階級に起因するものです。イエスは物質的な貧困を良しとはなさいません。スラムに住むこと、十分食べられないこと、不健康であること、それらは人々にとって良いことであるはずがありません。そしてイエスの言葉は野心を責めるものではありません。イエスが責めるのは豊かさへの過度の執着です。それは悩み苦しむ人への関心を考えられないものとするからです。

イエスの目から見れば、真の栄誉と尊敬は神によって決められ、神から授けられるものです。極めて公然と誰の目にも確かに見えるものとしてもたらされます。そして真に神の賞賛に値するものである栄誉は、いつも私たちの通常思っていることとは対極にあるものなのです。

ヒンズーのたとえば、泥だんごと枯葉の友人関係を語ります。あるとき泥だんごと枯葉の二人は、聖地ベナレスへの巡礼の旅に出ようと思立ちました。雨と風とがその巡礼の大敵だと知っていたので、二人は雨よけと風よけの対策を練りました。風が吹いたときには泥だんごと枯葉の上に座り、大雨が降ったときには枯葉が泥だんごの上に座ろうと決めたのです。その考えはうまく行きました。あるとき雨と風とに同時に見舞われるまでは。そのとき枯れ葉は飛ばされ、泥だんごはくずれ流されて跡形もなくなっていました。

“心の貧しさ”とは、私たちがこの人生をたった一人では生きられないと自覚することです。友人たちでさえ私たちを助けられないときがあることでしょう。私たちには神が必要なのです。

(Beatrice)

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

7. アヴィラのイエスの聖テレジア (1515-1582) —その3

アウマダのテレサ・デ・セペダは、1515年、スペインのアヴィラに生まれた。彼女は、最も高度な神秘的恵みを受けた真の観想者であった。彼女は師であり、その数々の著作は、現在にいたるまで靈感の源となっている。それらに匹敵するものはなく、彼女は教会博士の称号を受けている。先の時代の聖人たちの祈りとは異なり、テレジアの祈りは、時々取り留めない状態になり、別の方向へと向かっていった。彼女の祈りに、他の考えが混じているのはそのためである。あらゆる物事は愛するお方へと向かい、祈りはすべての物事の一部である。テレジアは、1582年10月4日にこの世を去り、教会は10月15日に彼女の記念を執り行っている。



イエスの聖テレジア

—— 祈り ——

『自叙伝』より

おお、わたしの主よ、あなたはなんと真実の友でいらっしゃるのでしょうか！ どれほどの力に満ちておられることでしょうか！ あなたは望まれる時に、愛することがおできになります。そして、あなたをお愛しする者たちを愛することを決しておやめになりません！ 世界の主よ、すべてのものが、あなたをたたえますように！（25：17）

おお、主はなんと良い方であられるのでしょうか！ なんと力に満ちておられるのでしょうか！ 主は勧告だけでなく、薬も与えてくださいます！ 主のみことばは、働いてみ業を行ないます。おお、神が私を助けてくださいますように。主は、どれほど信仰を強め、愛を増してくださることでしょうか！（25：18）

おお、私のイエス、あなたの愛に燃やされた靈魂は、どれほどのことを成し遂げるのでしょうか！ 私たちは、このような靈魂をどれほど尊重しなければならないことでしょうか。（34：15）

私の善よ、真にあなたを愛する者は、広い王道を安全に歩み、危険からははるかに離れています。彼がよろめくとすぐに、主よ、あなたは彼に御手を差し伸べられます。もし彼があなたを愛し、この世のものから離脱しているなら、一度あるいは幾度も倒れたとしても、道に迷うことはないでしょう。彼は謙遜の谷を旅しているのです。人々がなぜ完徳の道に踏み出そうとしないのか私には理解できません。主が、……神の道を進もうと努めることのうちにどれほど真実の安全があるかを理解させていただきますように。彼らの目を神に向けさせてください。私たちが最初に神を見捨てないなら、この正義の太陽が沈む心配はなく、神が、私たちが暗い道を歩み、道を踏み外すままにさせておくこともないのです。（35：14）

あらゆることにおいて私が主のみ旨をよく行なうことができますように。そして、そのことが、御力に満ち、お望みならば私の願いをお聞きくださる主の喜びとなりますように。至高の主が、これほど多くの方策を用いて、これほど度々地獄から救い出し、ご自身のもとへと引き寄せてくださったこの靈感がほろびることをお許しにならないでください。（40：25）

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

「今、ここ、私」

よく聞く言葉の一つに、“心、ここにあらず”というのがあります。それはその人の体はまぎれもなくここに居るのだが、“心がここに無い。どこかに飛んでいる”ということです。体はあっても魂^{たましい}はそこに無い。つまりその人は、何か^{こころ}にかかることがあり、それで心が占領されているので、体はあっても、その場での心はカラッポなのです。例えそれが良いことであっても、悪いことであっても…★ 良いことなら、例えば

- 何か良いことのために表彰される。
- 生まれて初めてのヨーロッパ旅行、キリスト信者なら聖地旅行とか。
- 難関を突破して有名校に首尾よく合格した、などなど。

★ 悪いことなら、例えば

- 突然の交通事故で身内の誰かを失った。
- 火事で全焼したり泥棒に多額の財産を盗まれてしまったなどなど。

つまり自分にとって大変な出来事なので、心が動揺し、想像という実体のないイメージの中に捕らわれて、体はそこに居るのだが、心が空想や夢の世界の中に^{とどろ}虜になってしまうのです。だから自分がそこにいても、自分ではない、まるで違う人間になってしまったかのような状態になるのです。

以上は極端な場合を言ってみただけですが、私もあなたも「平常」という当たり前である時と場所にいて、自分らしく、自分の行動をとっているかどうか。

私達は毎日の一つ一つの行動の中で、“今、ここ、私”という3点の一つでも欠けていないでしょうか。例えば「今、ここ」が満たされても、ほんとうの私^{こころ}が居なかつたりそうかと思うと、この場所を忘れて、別なイメージの場所に住んでしまったり……

最近、フツと思い出したのですが、英語を始めた頃、先生が出席をとる時に、名前を呼ばれたら、単に“^{イエス}Yes”と応えるより、“Present プレゼント”と応える方がもっといい返事だと教わりました。つまり（ここに存在している）の意味です。

今の私にとって、この返事はほんとうに素晴らしい返事だと思いました。

自分は、現実の今を、ここで、^{いつわ}偽らない純粹の私として、精いっぱい生きているでしょうか？

もしそうだったら、それは“充満”という表現が適しているように思います。
この3本立てが100%揃っている方が、神さまだと思うのです。

(出エジプト 3, 14)

創世記の始めに、神は“私は在りて在るもの”(充満)と言われました。私にとっては、これは“神の本質そのもの”と思えるのです。

私たち小さな人間は、とてもその比ではない。せいぜい人間として、“今、ここ、私”と言えるような時もあったら、それは“神にあやかるもの”と言えるのではないか、と思っています。

S r. 熊田 照子 (お告げのフランシスコ姉妹会)



小岸昭『離散するユダヤ人』を読んだそのあと

街の中の河岸カサのへりを歩いていたら、ピチャと魚が跳ねた。こんなよごれた河にもまだ生き物がある。恵みだ。そう思った。マラーノとかセファルディとか呼ばれる流浪の民よ、何千年も救い主を探し求めている離散したユダヤびとよ、どうか天上で大きな、大きなともしびとなって耀くように。あなた方が嘗めた辛酸のゆえに。神が報われるように。

蛭田 幼一

☆～星のかけらの祈り～☆

主よ、さつき、わたし、六種類のお菓を呑んだよ
お菓も、この地球という星のかけらから創られたんだね

わたしもまた
きつとこの星のかけら

チヨコつと光つてるといいな、ほくほく光つてるといいな

主よ、わたしは、あなたのかけら・・・みんなも、そうだよ

ひとりひとりが、主の愛のかけらなら
みーんな、ひとつになったなら
みんなでイエス様の愛の星になってきらきら出来るかな

星だつて、歌を歌う・・・わたしも星だから歌を歌うよ

歌いたい、歌いたい
心からの・・・祈りの歌

今、今、今、この時
地上の、あちらこちらで
暗闇のなかで迷子になった
主よ、あなたの愛の星のかけらが
消え入りそうな、寂しい光を放っているよ

わたしは、その寂しい光に向かつて
わたしの、ちっちゃな光を奏でて歌いたいんだよ

あなたの愛の星のかけらのわたしの、小さな光の歌に
主よ、あなたの涙を注いでね

星の小さなかけらの、ささやかな光も
あなたの涙を通れば・・・あなたの希望の虹になれるよね

丸山知佳子

いのちの言葉

2004年12月

主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。

(コロサイ 3・13)

クリスマスが近づき、主の訪れを間近に控えて、典礼は、道を整えるようにと私たちを招いています。

二千年前、歴史の中に入られた主は、今、私たちの生活の中に入ることを望んでおられます。しかし、私たちの心の道は、障害物でいっぱいです。山を崩して平らにし、岩を動かさなければなりません。イエスを迎える道をふさいでしまう障害物とは、何でしょうか。

それは、私たちの魂に浮かんでくる、神のみ旨に沿わないすべての望み、魂を締めつける執着のことです。必要でないときに「話したい」「黙っていたい」という望み、また「自分を認めてほしい、尊敬してほしい、愛してほしい」という望みや、神がお望みでないときに、物や健康、命に執着することもあるでしょう。さらには、反抗心や裁き、復讐など、もっと悪い望みもあります。

このような望みは、私たちの魂に生まれ、魂全体に広がっていきます。私たちは決心して、これらを消し去り、障害物を取り除いて、神のみ旨に立ち戻りながら、主の道を整えていく必要があるでしょう。

主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。

この言葉を、パウロは自分の共同体のキリスト者たちに語っています。彼らが、神の赦しを経験することにより、自分に不正を行う相手をも赦せるよう

になってほしいと、パウロは望んだからです。キリスト者は特に、愛することにおいて人間的な限界を超え、敵のために命すら与えることができるのを、パウロは知っていました。キリスト者は、イエスと福音の生活によって新たにされ、受けた不正や理屈を越えたところで、すべての人との一致に向かう力を見いだします。

一方、愛はどんな人の心にも奥深くで息づいており、だれもがこのみ言葉を実践することができます。

次のようなアフリカの格言もあります。「ヤシの木は、石を投げる相手に実を落としてあげます。これに習いなさい」と。

ですから、ひどい仕打ちや受けた侮辱に仕返しをしない、というだけでは不十分です。私たちには更に要求されることがあります。悪を行う人に対して、善を行うことです。これについては、使徒たちも次のように言っています。「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」¹「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」²

主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。

このみ言葉を生きるにはどうすればいいのでしょうか。

日常生活の中で、私たちのだれもが、親戚やクラスメート、職場の同僚や友人などから、迷惑をこうむったり、不正や悪を受けた経験があるでしょう。復讐してやろうとは思わなくても、私たちの心には、恨みや敵意、苦々しい思いが残っているかもしれず、相手に対し無関心になっているかもしれません。これらはすべて、私たちが真の交わりの関係を築くことを妨げるものです。

では、どうすればいいでしょう。

¹ ペトロの手紙一 3・9

² ローマの信徒への手紙 12・21

朝起きるとき、完全な“赦しの心”を抱くことです。すべてを覆う愛、相手の持つ限界や困難も含め、その人をありのまま受け入れる愛を抱くことです。子が過ちを犯しても、母親は常に子をかばい、赦し、希望を失わないものですが、私たちもそうありたいものです。

私たちは隣人の欠点を知っているかもしれませんが、相手がそれに一度も陥ったことがないかのように、新しい目で見ながら、一人ひとりに接しましょう。

神は人を赦してくださるだけでなく、犯した過ちを忘れ去ってくださることを心にとめ、いつもやり直しましょう。神は私たちにも、このような尺度を求めておられます。

戦争中の国に住むある友人も、これを経験しました。彼の目の前で、両親や兄弟、多くの友人が虐殺されました。苦しみは敵対心を生み、彼は、虐殺者たちが罪にふさわしい残酷な刑を受ければよいとまで思うようになりました。

一方で、彼の心には、赦すことを教えるイエスのみ言葉が絶えず響いていましたが、自分にはできないと感じていました。「どうすれば敵を愛せるだろう」と自問しながら、彼は何カ月もたくさん祈った末、やっと少し心の平和を得るようになりました。

しかし事件から一年後、虐殺者たちが公然と自由に国中を動き回っていると知ったとき、彼の心は、再び恨みの思いに締めつけられるようになり、この「敵たち」に出会ったら、自分はどんな態度を取るだろう、と考え始めました。「私の心を静め、もう一度赦すことができるようにしてください」と、神に願い求めました。

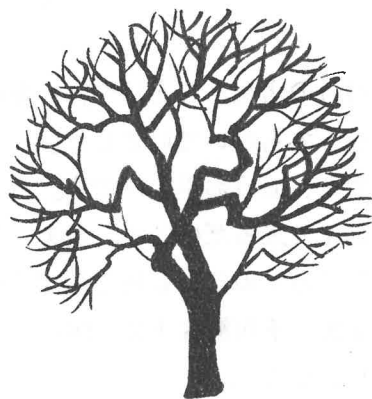
後に彼は語っています。「共に福音を生きている兄弟の模範に助けられ、私は神が求めておられることがわかりました。『いつか虐殺者に出会ったら自分はどうするだろう』などと考えて生きるのではなく、今、自分のそばにいる同僚や友人を愛するよう気をつけ

ることだ、と。隣人を具体的に愛することによって、家族を殺した人々を心底赦す力を少しずつ見いだしました。今、私の心は平和です。」

キアラ・ルービック

キアラ・ルービック

★いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。



フォコラーレ

連絡先:03-3332-8460/03-3399-5508

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan>

L'AMATA E IL SUO POETA

Lei: " Vedo che credi nell'amore spirituale".

Poeta: "Si, e tu sei perfettamente angelo".

彼女と詩人

彼女: “貴方は魂の愛を信じているように思えるのだけれど”。

詩人: “そうさ、だから君は完全に天使なんだ”。

Marco Maffezzoli マルコ・マツフェツォーリ

浅野 菜生子 訳

お手あげです

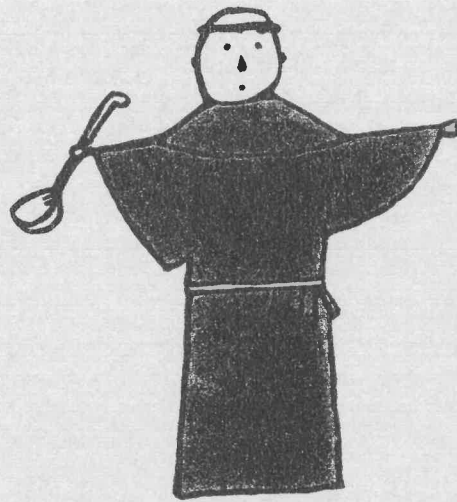
自分の考え、ことばや行いを自分自身で、真理に近づけたり正しい者にしようと焦ってもがいていました。

でも、もうお手あげです。自分が間違っていること、悪い傾き、不完全なことが見えて来るだけです。過去、現在、未来を通して、私の全てをご存知で、私の周りの方々のことも皆ご存知で愛によって、導いておられる父なる神様に、小さいまま、不可解なまま、弱いまま、混沌のまま、全てを投げ出してゆだねることにしました。

私の「道」で居られるキリストさまを求めて一步一步進みます。「求めなさい、願いなさい、そうすれば与えられる」と言って下さったので、私は、祈り願います。どれぐらいかわかりませんが、多分残り少なくなったこの世で生きている間、神様のみ心に適う事を行うために必要なことをわからせて下さい。悟らせて下さい。最後迄力を尽くし心を尽くすことができます様に。

酒井利栄子

カルメル会の企画案内



2004年12月～2005年12月までの黙想会予定表

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日 16時)

'05/3月19日～20日・・奥村一郎師

4月23日～27日

6月4日～5日

10月22日～23日

12月17日～18日

2. 奉獻生活者のための黙想会

'05/7月28日(木) 16時～8月6日(土) 朝

8月12日(金) 16時～21日(日) 朝

12月27日(火) 16時～'06/1月5日(木)

3. カルメルの聖人を見つめ霊性を深める

(毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア

B・・・十字架の聖ヨハネ

1月19日

2月23日

3月23日

注: で囲んだひにちは以前と変更になりましたのでご注意ください。

以下 '05年4月より毎回金曜日に変更(金曜黙想会)

A・・・大聖テレジア

B・・・十字架の聖ヨハネ

4月8日

5月13日

6月10日

7月8日

10月7日

11月11日

12月9日

'06/1月20日

'06/2月10日

3月10日

4. 青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

'05/ 5月21日(土) 16時～22(日) 16時

11月19日(土) 16時～20日(日) 16時

5. 大祭日のミサにあずかるために

復活祭 '05/ 3月26日(土) 夕食~27日(日) 朝食
以上、チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで
聖週間を黙想する '05/ 3月24日(木) 夕食~27日(日) 朝食
(講話はありませんが木、金、土といつからでも参加でき、食事もご用意します)

6. 特別黙想会 伊従信子(N.D.V)

(夕食は済ませてご参加ください。)

- ① 05/5月27日(金) 午後8時~29日(日) 午後3時
- ② 10月28日(金) 午後8時~30日(日) 午後3時



* 電話でのお問い合わせは 午前9時~午後4時45分までをお願いします。
また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想) 担当 br 原
TEL 03-5706-7355
FAX 03-3704-1764
Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

東京カルメル在俗者会黙想 場所：上野毛聖テレジア修道院(黙想)

'05/ 6月16日(木)~19日(日) チェリアノ師
8月24日(水)~27日(土) アロイジオ師
9月29日(木)~10月2日(日) 九里 彰師
10月13日(木)~16日(日) 新井延和師

空きがある場合には、一般の方でも参加可能です。

TEL/FAX 03-3892-1378 阿部昌子

カルメルの靈性研究クラス

* 十字架の聖ヨハネ：『暗夜』

1月20日(木)、2月9日、3月9日、3月30日。

(1月28日は、第1部第11章～第13章を読む予定です。)

* アヴィラの聖テレジア：『自叙伝』

1月12日、2月2日、2月24日(木)、3月23日。

(1月12日は、第34～第35章を読みます。2月2日と3月23日は映画。)

どちらも水曜日夜7：00より8：30まで、上野毛教会信徒会館2階26号室でおこなわれます。時々、都合により曜日を変えますので、ご注意ください。

祈りの集い

1月21日、2月25日、3月18日。

毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備もありません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い

[靈性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの靈性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。

担当：九里^{くのり} 彰神父



黙 想 会 案 内 (宇治カルメル会)

(2004年10月から2005年12月まで)

聖書深読 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

05/ 3月12日~13日 奥村一郎神父
 6月18日~19日 カルメル会士
 11月19日~20日 カルメル会士

***日帰り深読** (日曜日午前10時~午後4時)

05/1月16日 奥村一郎神父
 4月24日 新井延和神父
 9月11日 カルメル会士
 12月11日 カルメル会士

***ミニ深読** (火曜日午後2時~4時)

05/2月 8日 深読スタッフ
 5月10日 深読スタッフ
 7月 5日 深読スタッフ
 10月18日 深読スタッフ

一般のための黙想

6日間の黙想 05/ 4月29日(金)夕~5月5日朝 福田正範神父
 12月30日(金)夕~1月5日朝 カルメル会士

青年男女黙想会 (午前10時~午後5時)

05/ 4月17日(日).....カルメル会士・カルメル宣教会
 11月 6日(日).....カルメル会士・カルメル宣教会

水曜一般黙想会 (午前10時~午後4時まで)

05/ 1月19日 仏教とキリスト教の対話・・奥村一郎神父
 2月16日 聖書の祈り.....新井延和神父
 3月16日 復 活.....福田正範神父
 4月20日 日本の神学.....奥村一郎神父
 5月18日 聖霊の賜物.....長岡幸一神父
 6月15日 イエスのみ心.....カルメル会士
 7月13日 カルメルの祈り.....カルメル会士
 9月14日 エディット シュタイン・・アロイジオ神父

京 都

- 10月19日 神との親しさ・・・カルメル会士
11月16日 聖性への招き・・・Sr. ペアトリス
12月14日 十字架の聖ヨハネ・・・カルメル会士

四旬節黙想（午後5時～午後4時）

05/2月12日（土）～13日（日）・・・福田正範神父

待降節黙想（午後5時～午後4時）

05/12月3日（土）～4日（日）・・・カルメル会士

聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

05/9月30日（金）～10月1日（土）・・・伊従信子氏

奉獻生活者のための黙想会（午後5時集合/午前9時解散）

- 05/7月21日（木）～7月30日（土）・・・カルメル会士
8月4日（木）～8月13日（土）・・・カルメル会士
8月17日（水）～8月26日（金）・・・カルメル会士
10月2日（日）～10月11日（火）・・・カルメル会士

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457

「立ちとまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の日静修～ (2005)

この会は現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神さまとの静かなひと時を過ごすために企画しました。イエス様は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28:20)といわれました。

共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみたいかかでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、イエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月10日(月)	「聖マタイに聴く(1)」	松田浩一神父
第2回	2月11日(金)	「カルメル会と御聖体」	松田浩一神父
第3回	3月21日(月)	「主の晩餐への道」	松田浩一神父
第4回	4月26日(火)	「ミサとわたしたちの召命」	松田浩一神父
第5回	5月24日(火)	「御聖体と聖母マリア」	中川博道神父
第6回	6月28日(火)	「聖マタイに聴く(2)」	松田浩一神父
第7回	7月18日(月)	「神の国のパン種」	九里 彰神父
第8回	9月27日(火)	「十字架と教会の秘跡」	松田浩一神父
第9回	10月18日(火)	「主の食卓のグローバリゼーション」	福田正範神父
第10回	11月23日(水)	「主は皆さんと共に」	松田浩一神父

* 時間 いずれも AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線、日比野駅下車2番出口徒歩5分
(駐車場は利用できません))

* 持ってくるもの 聖書・筆記用具・ロザリオ・昼食の弁当

* 定員 約15名 *費用 1,000円

プログラム 10:00 祈り

10:45 講話 1

12:00～12:45 昼食

12:45～ ゆるしの秘跡または短い面接

13:30～講話 2

14:45～ミサ

15:30～茶話会

また空いている時間にゆるしの秘跡、短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL を記載の上、開催日の3日前まで

必着のこと。なお、日比野教会で葬儀などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝 4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係(担当松田浩一神父)

FAX052-671-1825 お問い合わせ TEL052-671-1003

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.314 (2004年秋号)

「今日の靈性」

祈り (8) …チプリアノ・ボンタッキョ
十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」(3) …九里 彰
カルメルへの響き (1) —カルメル日本宣教の根底史 (1562—1951) …大瀬高司
イエズス 私の最愛のお方 思い出してください(12) …ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェニヌ師(6) …伊従信子
神の訪れ、喜びの輪の誕生 …高橋重幸
三位一体のエリザベット(7) —愛に生きる …伊従信子
巡礼者 —心の旅 …ユージン・マッカーフリー
ガラスの心と柔らかな心と …森 みさ
出会い—修道生活きのうきょう—(8) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 315 (2004年冬号)

「今日の靈性」

聖体 —キリストの過越の神秘 (最終回) …高橋重幸
姦通の女に対する「イエスのまなざし」 …九里 彰
祈り (9) …チプリアノ・ボンタッキョ
カルメルへの響き (2) —卒啄不同时 カルメルの知られざる日本宣教 …大瀬高司
イエズス 私の最愛のお方 思い出してください (13) …ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェニヌ師(7) —一人々の渇きに応えて …伊従信子
祈りに関する一考察 …シスター・ベアトリス
三位一体のエリザベット(8) —キリストの苦しみを身におびる …伊従信子
仏教者の作品に見られるキリスト教 —『歎異抄』 …谷口正子
出会い—修道生活きのうきょう—(9) …奥村一郎

*年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格: 3000円(送料込み)

郵便振替: 00190-4-195457

跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田: TEL03(5706)8356迄。)

「カリットへの旅 —カルメル会の歴史」

P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、
2003年、サンパウロ、定価(本体2500円+税)。

「十字架の聖ヨハネ詩集」

ルシアン・マリー編集、西宮女子カルメル会訳注、2003年、新世社、定
価(本体2000円+税)。

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

3 京都

1. 1月15日（土） ペテロ・バーケルマン神父
2. 2月12日（土） 新井延和神父
3. 3月12日（土） 一場 修神父
4. 4月 2日（土） パトリック・オヘール神父
5. 5月21日（土） 奥村 一郎神父
6. 6月 4日（土） 奥村 豊神父
7. 7月 9日（土） 奥村 豊神父
8. 9月17日（土） 奥村 一郎神父
9. 10月15日（土） 奥村 豊神父
10. 11月 5日（土） 一場 修神父
11. 12月10日（土） パトリック・オヘール神父

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回2,500円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ **（お申し込みは、各回3日前までに）**

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋

- 第1回 4月9日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父
- 第2回 5月28日（土）～29日（日） 宇治カルメル黙想の家 奥村一郎神父
- 第3回 9月17日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父
- 第4回 10月29日（土）～30日（日） 宇治カルメル黙想の家 奥村神父

* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

* 原則として、定員21名とし、申し込みはファックス、葉書でお願いします。

* コースは深読法を集中的に行う1日コースと、全行程を行う1泊2日コース

があります。

* 対象は信徒、未信徒の別を問いません。

キリストの教えに関心のある方でしたらどなたでもご参加下さい。

連絡先：〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

TEL/FAX 052-701-3685

5 横浜

一日コース

月 日	場 所	指導司祭
1月15日(土)	ザビエルセンター	九里彰師
3月3日(木)	同 上	未 定
7月13日(木)	同 上	九里彰師
12月7日(水)	同 上	九里彰師

* ザビエルセンター・・・横浜市中区滝之上

* 時 間 10時～16時

一泊二日コース

月 日	場 所	指導司祭
5月14(土) 15日(日)	聖母の園黙想の家	新井延和師
10月	未 定	中川博道師

* 時 間 14日13時～15日16時

* 10月は未定です

連絡責任者 蜜本昌俊 TEL&FAX 045-621-5838

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

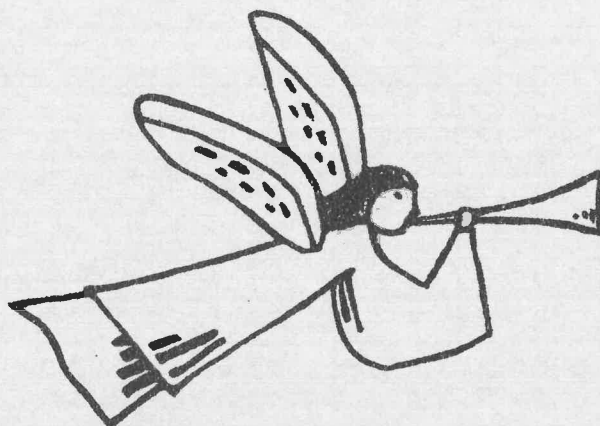
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



CWC (キリスト者、婦人の集い)

生命山霊性交流センター

心のいほり

リーゼンフーバー講座

三位一体の聖体宣教女会

マリアのみ心会

ノートルダム・ド・ヴィ

聖心会黙想の家

諸所の企画紹介

* CWC (キリスト者婦人の集い) 講師：九里 彰 神父 (カルメル会)
2005.

会場：真生会館第一会議室

テーマ：教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡

女性の尊厳と使命についてお話しします。

日程：1/18 (火) . 3/22 (火) .

時間：午前10:30~12:00

4月以降は決まり次第本誌にてお知らせします。

* リーゼンフーバー講座・集い・研究会の案内

キリスト教 金曜日18時45分~20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館
入門講座 アルペホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを致します。

キリスト教：毎月第一・第二火曜日18時40分~20時30分

理解講座： 聖イグナチオ教会アルペホール。キリスト教の基礎知識
のある方。(2年間コース)信仰理解と信仰生活の深まり
を目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会：木曜日12時40分~13時25分上智大学7号館316号研究
室、学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います

座禅会： 月曜日 17時20分~20時10分 * 木曜日18時20分~20時30分
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心： 2005.2/26 (土)8:30~27日(日)16時 上石神井 (5400)
5/29 (土)13:~30日(日)16時 宝塚市
7/31 (土)17:30~8/6(金)13時

黙想：毎月第2.第4火曜日18:45 - 20:00： イグナチオ聖マリア聖堂
水曜日 18:00~18:30： 上智大学内クルトゥルハイム一階右
小聖堂 どなたでも

祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場所：S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

* 2005.1/8.2/19.3/19

アガペ会： 説明会と集い・下記の日 13時30分~(20代~40代の信者)
2005.1/22(土)：S.J.ハウス第5会議室

クリスマス会：12/18 (土)16:30~上智会館5階第6会議室 要申し込み
12/23 (火)14:00~上智大学内クルトゥルハイム聖堂

会社帰りの黙想：毎月第2.第4火曜日 18:45~20:00
聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

* 以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス
直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX.03-3238-5056

* 三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年～2005年

「聖書で祈る」：指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2005. 2月26日（土）5：30～27（日）4：00

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（司祭）

対象：男女青年信徒

2005. 2月8日（土）10：00～4：00

黙想会：指導：星野正道師（司祭） *対象：一般信徒（お弁当持参）

2005. 2月4日（金）10：00～4：00

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い *対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～200Pm)

* マリアの御心会

場所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

JR信濃町駅下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み：TEL. 03-3351-0297 : FAX. 03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」 結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

2005年度

1/23（日）聖体に現存するキリスト

森一弘司教

2/20（日）わたしの内に、巣くう社会の歪み

下川雅嗣師

3/20（日）毎日の生活の中に神を探す

加藤信也師

* 真命山の霊性

〒865-0133 熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

申し込み：TEL. 0968-85-3200; Fax. 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

***：尚、個人、グループで黙想会、研究会などできますので、ご相談下さい。宿泊は10名ぐらい迄可能です。

* 『心のいほり』

内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

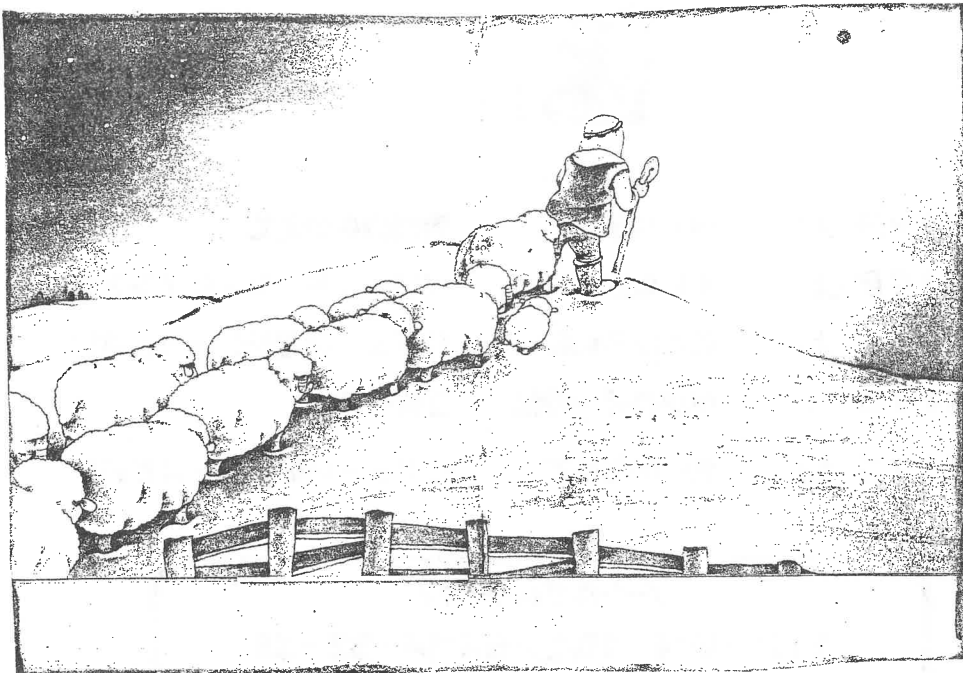
TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

2005年度

- | | | | | | |
|----------|-----|----------|------|------|------------|
| 1/10 (月) | 2時~ | 1/16 (日) | 2時まで | 6泊7日 | 横浜・戸塚 |
| 2/7 (月) | 2時~ | 2/13 (日) | 2時まで | 6泊7日 | 兵庫宝塚売布 |
| 2/20 (日) | 2時~ | 2/26 (土) | 2時まで | 6泊7日 | 札幌厚別ベネディクト |
| 3/6 (日) | 2時~ | 3/12 (土) | 2時まで | 6泊7日 | 横浜・戸塚 |
| 4/3 (日) | 2時~ | 4/9 (土) | 2時まで | 6泊7日 | 兵庫・宝塚売布 |
| 4/10 (日) | 2時~ | 4/16 (土) | 2時まで | 6泊7日 | 京都・竜安寺 |



すべての人のための祈りの集い

いのちの泉へ

- キリスト者としての成長をめざして -

2005年

1月29日(土) 信仰の喜び ナザレのマリアと共に

スタッフ

伊従信子・片山はるひ・ノートルダム・ド・ヴィ会員

参加費200円

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)



今後の予定

- | | | |
|----------|---------|----------------|
| 2月19日(土) | 砂漠の旅 | 四旬節を迎えて |
| 3月19日(土) | 十字架からの光 | エディット・シュタインと共に |
| 4月23日(土) | 弱さから信頼へ | リジューの聖テレーズと共に |
| 5月21日(土) | かかわりの神秘 | 三位一体 |
| 6月11日(土) | 愛にゆだねて | リジューの聖テレーズと共に |

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail ndv-jp@2.dion.ne.jp

聖心会裾野修道院 ヴィラ・フジ (黙想の家)

〒411-1126 静岡県裾野市桃園198

TEL: 055-992-2120 FAX: 055-992-2165

聖書による個人指導黙想会

2005年1月26日(水) - 2月4日(金)

ヘルパー: 松本秀友師(京都教区)、Srs. 吹田真佐子、長谷川和子

申込先: 〒108-0072 東京都港区白金4-11-1

聖心会レターレ修道院 Sr.吹田 真佐子

Tel: 03-3446-1270 Fax: 03-3441-0454

〒455-0872 名古屋師港区西蟹田1833

聖心会名古屋修道院 Sr. 長谷川 和子

Tel: 052-302-4385 Fax: 052-309-1670

一般黙想会

テーマ: 「自分探し」(2回とも参加できる方)

講師: 近藤雅広神父(心のともしび運動)

① 2004年11月1日(月) 午後1時より
11月3日(水) 午後2時まで (了)

② 2005年4月14日(木) 午後1時より
4月16日(土) 午後2時まで

参考: 「私は誰ですか」(近藤雅広著 天使院刊) にもとづく講話形式の黙想会

申込先: Sr. 長谷川 和子 (上記の連絡先)

K.リーゼンフーバー著 知解を求める信仰 ドン・ボスコ社

B5 160 ページ 定価 735 円

本書は、信じることと生きることを関連づけることを通して、信仰を理解へともたせようとするものである。人間の日常的、また本来的なあり方から出発して、聖書の解釈と哲学的人間論を組み合わせながら、人間の存在から生まれる問いを信仰の真理に向かって展開している。

24 の短い章は、人生の意義への追求を中心にして、まず、超越に対する人間精神の開き、神の経験と理解を取り上げる。次に、キリストの生涯と活動の示す所を探究する。さらに、キリストの秘儀を信仰と希望のうちに受け入れ、愛をもって生涯に生かす道を捜している。

各章は、おのおの完結し、各人の関心に応じてどのテーマからも読み始めることが可能であるが、全体は一貫した歩みとなり、キリスト教の基本的な諸真理を通して成熟した自己理解へと導く。

わかりやすい文体で、要理研究や読書会の材料としても適している。



投稿についてのお願い

投稿くださるときには、次のようにしていただくと幸いです。

- * **締め切り** 毎月10日まで
- * **原稿サイズ** : B5 左右の余白 : 最低13mm
- * 「心の泉」のコーナーについては、
随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
- * 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
- * 寄稿連絡は、くのり 九里 彰神父宛にお願いいたします。
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

「**霊性センターニュース**」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を**現金**で送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722



お 知 ら せ

- * **E-mail の投稿**も受けつけます。
seminary@carmel-monastery.jp
- * **「読者の声」の欄**を設けます。日頃感じていること、本誌に対する感想などをお寄せ下さい。郵送、ファックス、e-mail 等で。
- * **「霊性センターニュース」への献金**の窓口が変わりました。
郵便番号口座：00110-4-297250
加入者名：カルメル霊性センターニュース
通信欄に「霊性センターニュース」への献金とご記入ください。
振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。

編集後記

新年というと、多くの人が初詣に出かける。日頃、神や仏などまったく信じていない人が大半だと思うが、帰属意識を求める集団心理か、広い意味での日本人の宗教性の発露なのか、実に多くの人が着飾って、そろそろと神社仏閣へ足を運ぶ。

そして皆、お賽銭を投げ、一秒か二秒、何か祈るのである。漠然と「よい一年でありますように。家族みんなが健康で無事に過ごせますように」というものから、「試験に合格しますように」「いい会社に就職できますように」「今年こそ結婚できますように」と、いろいろであろう。

とにかく何か祈るのであるが、そんなに長くは祈ってられない。後ろから次から次へと人が押し寄せてくるからで、うかうかしていると押し倒されたり、お賽銭が頭にぶつかるかもしれない。

しかし神さま仏さまの方も、いい迷惑であろう。普段はまったく祈りなど来ないのに、一年に一度だけ、それも一秒か二秒祈り、50円玉や100円玉と引き換えに、その年の願い事を全部かなえろというのだから。でも「馬鹿にするな！」という声は聞こえてこない。

新しい歌を主に向かって歌え / 全地よ、主に向かって歌え
主に向かって歌い、み名をたたえよ / 日ごと、主の救いを告げ知らせよ (詩 96)

(P.九里)

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：祈ることの意味

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分）
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会(TEL 03-3704-2171)

日時：下記の各土曜日 午後2時半開始（講話の後ミサがあります）

- 2月12日（土） 九里彰（カルメル会司祭）
「現代における祈りの意味」
- 2月19日（土） 菊地達也（神田外語大学専任講師）
「イスラームの祈りとはどういうものか」
- 2月26日（土） 奥村一郎（カルメル会司祭）
「私はどう祈ってきたか」
- 3月5日（土） 三橋健（國學院大學神道文化学部教授）
「神道の祈りが現代に問いかけるもの」
- 3月12日（土） 中山真理（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
「私はどう祈っているか」

【外部講師の紹介】

菊地達也

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程終了。イスラーム史研究者。
概説書シリーズ、マリーズ・リズン著「イスラーム」の翻訳者。

三橋健

國學院大学大学院博士課程終了。神道学博士。「国内神名帳の研究」論考編・資料編、「日本人と福の神」、「わが家の宗教 神道」、「わが家の守り神」、など多数の著書がある。

中山真理

ノートルダム・ド・ヴィの会員。カトリック福音センター（京都教区）勤務。

